

ものみの塔の正式な教理とその組織の実体に基づいた将来の展望

変な長老、頭に来る兄弟、分けわかんない姉妹についてのつぶやきを耳にしない日はないと言うくらい、気心の知れた兄弟、姉妹たちの間でささやかれる深いため息や、嘆きが渦巻いている昨今、そんな事より、目を上げて、間近い将来へのビジョンに目を移す方がどれほど慰めになるかしれません。

ジョン・レノンの歌に「イマジン」というのがあります。

「想像してごらん。その気になれば たやすいことだよ」と歌いかけています。

わたしも今、エホバの証人であるあなたに投げかけます。想像してみてください。

ハルマゲドンで「世の人」が滅ぼされた後のことを考えて見るがありますか。

その時、あなたの周りにいるのは今交わっている会衆の人びとだけです。

エホバの証人の組織は「神権組織」で、来るべき神の全面的支配を、いわば先取りした形ですすでに体験していると言われていています。

つまり、1914年以來キリストの支配は、地上の代理者、現在は「エホバの証人の統治体」を通して表明されているとされています。

これはものみの塔の正式な教理です。実際もしそうでないなら、キリストは王として臨在を開始はしたものの誰も支配していない状態が100年も続いていることになってしまいます。

つまり神の王国の支配は、地上の人間の代理支配という形式でなされるということです。「ものみの塔聖書冊子協会」はいわゆる「宗教法人団体」として、世の法律に則って政府によって認可されているものですから、世の政治国家が滅ぼされる時、その認可なども無意味になりますので、いわゆる協会は解体されるということになるでしょう。

しかし、「統治体」は完全に霊的な存在であるとされていますので、ハルマゲドン後も統治体はメンバーを変えながら、ずっと存続してゆくということです。

ですから、ハルマゲドンで変わるのは外部の世界だけです。

会衆とそこに交わる人々の生活は基本的に何も変わりません。

洪水を生き残って箱舟から出てきたノアの家族と同じように、世界は一変しましたが、彼らの交わり、生活はまったくそのまま、継続されたのと同じです。

何しろ、組織また会衆は、神の宇宙組織の地上の見える部分であり、今すでにそうした状態にあるからです。それは、ハルマゲドンまでの世を忍ぶ仮の姿ではなく、すでに是認され、確立された神の組織です。

それで今、あなたが交わっている会衆の長老たちは、千年王国の期間中「地の君」としてあなたを支配してくれます。

そして、奉仕の僕たちは、それを補佐します。もっともそれらの人も早々に長老になります。

何と胸の踊るような祝福でしょう。

その時、「世俗の仕事」はすでにはないので、あるのは「奉仕」だけです。

当然、毎月の「奉仕報告」の提出が求められるでしょう。

もし、その時、それが「必要のない」ものであるなら、当然、現在も「必要のない」ものだからです。

しかし、「王国」はその臣民の業を管理するために「毎月の報告」を義務づけています。ですから、王国の取り決めとして、定めなく続いてゆくはずで

そして、これもまた当然に、すべての人は「全時間奉仕者」です。

そして、当面の仕事は、死体の後片付けです。

この仕事は、屍に群がる鳥を追い払いながらの、相当、厳しい奉仕となるでしょう。

それがどれほど膨大な仕事になるかと言うと、仮に、この体制が後 10 年続いてハルマゲドンがあると仮定しますと・・・

エホバの証人の伝道者が現在と同じ増加率で増えたとすると 10 年後には丁度 800 万人位になります。

そして世界人口は 10 年後には、およそ 75 億 4600 万人くらいになると言われています。

エホバの証人のうちの忠実を保った人だけが、保護されて終わりを生き残るとされていますが、今はここで、仮に伝道者全員が救われるとすると、楽園に生き残るのは、わずか 800 万人くらいとなります。

1 人当たり平均 1000 人ほどの死体を処分しなければならない勘定です。実際には都市部ではその何倍にもなるでしょう。

そして、その「死体処理」は「埋葬」するためではありません。

彼らは、いや、それらは「糞土」であり、忌むべきものとして処理されるからです。

もし、それが、手塩にかけて、愛情込めて産み育てた「我が子」だったら、あなたはそれを「糞土」として片付けられますか？

まったく同じことを、あなたの隣りで、終わりを生き残った者の特権として喜々として行なっている従順な姉妹を見て、「ああ、私もああいう態度でなくちゃ忠誠とは言えない」と励まされるのでしょうか。

その中には、あなたの配偶者や子供たち、両親、親戚の人、友達もいるかも知れません。いずれにしても、あなたに指示される「奉仕」は、あなたの身近な所に住んでいた人たちの死体処理です。

ハルマゲドンまで、とにかく我慢して、それからは全ての解放と自由があると思っている方は大いなる勘違いです。

サタンの世である外部の世界を除いて、今の状況がいつまでもブーと続くことになっています。

もしそれとは違ったイメージを抱いている人がいるなら、あなたは、エホバの証人の教理に精通していません。

あるいは、知っていながら、これとは違うイメージを抱いているとしたら、組織から見ればあなたは限りなく「背教者」に近いと言わねばなりません。

ただ幸いなことに、全ての人は1000年後には「完全な人」になっています。

しかし1000年もかかるのですから、少なくとも数百年は、今とほとんど状況は変わらないでしょう。

ところで、ほぼ完全に近くなったら、さすがの今の長老も相当にキリストの丈の高さに達して、それなりにまともな人間になっているに違いないと、ほのかな期待を抱いているかも知れない方には、水を差すと言うか、冷水を浴びせるようで、気が引けますが、しかし、伝えて置かなければなりません。

人間としての完全さと、人間性をもった徳の高い人というのはまったく別問題です。

「完全な人間」だったエバは、いとも簡単に自分の夫の言うことを無視し、蛇の言葉に惹かれて裏切りました。

「完全な人間だったアダム」は、なぜ禁じておいた実を食べたのかと尋ねられた時、「あなたが与えて下さった女が食べるように言ったので・・・」という答えによって、その責任を神と自分の妻のせいにしました。

「完全な霊者」だった元み使いは、自分を悪魔にしました。その後「悪霊」となった何億という数の霊者も同じです。つまり、彼らはその後も、今以て、不完全になった訳ではなく依然、完全な霊者であり、滅ぼさない限り死ぬということはない事からも分かる通り、「神の被造物」の中で不完全になったのは人間だけです。従って、完全になったからと言って、霊的な健全さを自動的に身に付けるわけでもなく、相応しい特質を持った者になるわけでもありません。

実際、王国の支配の元、そして天の祭司の助けを得ながら、千年をかけて、ひとり残らず完全になった人々の内、「海の砂」ほどの人数の人は、神とキリストに敵対し、神から滅ぼされるような人々なのです。

(啓示 20:8 - 10) … 「それらの者の数は海の砂のようである。そして、彼らは地いっぱい

いに広がって進み、聖なる者たちの宿営と愛されている都市を取り囲んだ。しかし、天から火が下って彼らをむさぼり食った。

そして、彼らを惑わしていた悪魔は火と硫黄との湖に投げ込まれた。そこは野獣と偽預言者の両方がすでにいるところであった。」

つまり、その程度の人格、認識、霊性しか持ち合わせない「完全な人間」が数え切れな
いほどいるということです。

その時まで、「地の君」としてあなたを支配してきた人も、そうした人の1人である可能性は、十分にあり得るという事です。

別の表現で言えば、あなたの今交わっている会衆の長老たちが、ハルマゲドン生き延びたとしても、結果的に、上の聖句示されるような、滅びに値するような特質しか持ち合わせないまま、今現在からハルマゲドン後1000年の間も、ずーと、あなたを支配し続けるということは十分にあり得る事です。

重ねて断っておきますが、今のエホバの証人の神権組織は、すでに樹立して支配を開始している「神の王国の支配」をすでに受けている状態で、今後ハルマゲドンで変化するのは、世の支配者と諸国民の滅びであって、実質的な神からのあなたに対する対応は何一つ変わることはない（変える理由がない）ということです。

ということは、当然1000年が過ぎたその後も、ことさらに何ら変わることはないということです。

なぜなら、今すでに、あなたが受けている支配が、神の支配ですから、基本的に未来永劫に今と変わりなく、今現在「エホバの証人」として受けている祝福は、将来受けるであろう祝福と大差ないということが分かります。

いつまでも決して変わることがないものを今すでに得ているとは、何と胸の躍るような立場にいるのでしょうか。

統治体と、その支配の元にある会衆という形の「組織」は今後もずっと継続することは何度も述べました。

それで、ここに最後に注意事項を一つ述べておかねばなりません。

ハルマゲドン後であっても、あなたの所属する会衆の取り決めや、教理に疑問を感じることがあっても現在と同様、決して口にしないのが最善でしょう。とりわけ組織について疑問に思ったり、それは誤っているのではないかという形で、質問や相談をするなら「神の王国」は容赦なくその人を切り絶つものだという事をすでに実証しているか

らです。つまり排斥処分です。それは言ってみれば霊的な死刑ですから、千年王国中でも、それに相当する結果を身に招くことになるでしょう。

現代では、仮にそうであっても未信者の親族や隣り近所、世の友人がいるので、普通に接して会話もできますが、千年王国の地上の樂園ではそうはいきません。あなたに話しかける人は地球上に一人もいません。

また、新秩序では、「新たな巻物」も開かれるので、聖書研究、定期的な集会出席、個人研究も今以上に必要となるでしょう。

そしてそれらの新しい教えの理解も与えられるでしょうが、エホバは漸進的に導かれる方なので、やはり「新しい光が当たる度毎に、次々に変わってゆくことでしょう。

そして現在と同様に、あなたに示される指示なども、これと言った説明や納得の行く理由など何も示されず突如として変わるかもしれません。

そんな支配を永遠にわたって受けられるなんて何という胸の踊るような見込みなのでしょう。

しかし、ある人はそのようには感じず、ここまで読まれて「悪夢のようだ」とつぶやく方もおられるかもしれません。

それもそのはずで、ここに描かれた世界は聖書の福音とは似ても似つかない、かけ離れた世界と言わざるを得ません。

しかし、この展望は、エホバは証人の正式の教理と、現行の組織、会衆のあり様にしっかりと基づいた展望であることに間違いはありません。

では、この展望のどこがちがっているのでしょうか。

すべてです。ほとんど全部間違っています。

前提とした教理と組織のあり方が、甚だしく、聖書とかけ離れているために、こうした展望になってしまっているのです。

聖書を注意深く読むならば、決してこのような将来になることはないことがはっきり分かります。

上記の展望は確かに悪夢です。しかし、何と幸いな事に、それは単なる「悪い夢」であり、現実になることはありません。

将来は、「神の宇宙組織の見える部分」に今実際に見えているもの、その生みだしている実とは、ことごとく異なった、真の自由と平安と、愛に満ちあふれる人々との交友へと導かれると言う、おそらくあなたが抱いている将来のイメージを 聖書は決して裏切ることはないでしょう。